

植込み型補助人工心臓装着者の復職支援			
ガイドラインステップ	キーワード	・復職支援	・心不全
10, 11B-2, 11B-3	(6 つ以内)	・両立支援 ・補助人工心臓	・多職種連携 ・
改善・取組みの背景と課題	<p>本邦において、植込み型補助人工心臓(VAD: ventricular assist device)装着者は増加している。2021年4月には一部機種において心移植を前提としない永続的な使用(Destination Therapy)としての保険償還も認められるようになった。このような背景から、企業側がVAD装着者の復職支援を行う機会も増えていくであろうと思われる。</p> <p>VAD装着者が復職することは、本人の社会参加という観点において大きな意義があり、加えて、企業側においては継続的な人材確保や社会的責任の実現という意味において重要である。</p> <p>その一方で、VAD装着者の復職支援、両立支援についての具体的な報告は少ない。</p> <p>今回、VAD装着後の復職意思に基づき、産業衛生スタッフが補助人工心臓の実施／管理施設、社内人事部門と連携し、周囲の社員の協力も得ることによって滞りのない復職とその後の就労継続を支援できた2事例を経験したので報告する。</p>		
改善・取組みの着眼点	<p>この2事例はともにVAD装着前より主治医・産業医間の連携を図っていたが、先行事例が乏しいため、主治医のみならず、家族、VADコーディネーター、レシピエント移植コーディネーターとの積極的な情報共有を行いながら、下記の取り組みを行い、受け入れ態勢を整備した。</p>		
改善・取組みの概要	<ul style="list-style-type: none"> ・経営トップへの説明と職場への協力要請: 人道的見地からも復職を受け入れるべきであることを統括産業医から経営トップに説明し、理解を得た。トップからの「受け入れよう」という言葉の下、職場の協力を仰いだ。 ・復職意思確認: 合併症発生時には致命的になりうるというリスクを含め、本人、家族ともに十分理解できていることを確認した。 ・勤務地、通勤手段の検討: VAD装着者は実施／管理施設から救急車で2時間圏内にいることが求められるため、その条件を満たす職場での勤務とした。自身での各種車両の運転は禁絶であり、単独行動も避ける必要があることから、家族送迎による通勤とした。 ・業務内容の検討: 頻繁に体を動かす業務や、勤務中移動を伴う業務は避ける必要があることから、デスクワークとした。2事例ともに大きな職種変更は必要なかったが、周囲に多くの社員がいる部署へ異動させることとした。 ・サポーター講習の受講: 上司、同僚、産業衛生スタッフは、実施／管理施設においてサポーター講習を受講し、機器の概要や緊急時対応につき学習した。講習については、定期的に行っている施設、産業衛生スタッフ側からの要望に応じて行う施設がある。今回の2事例の内1例については、実施／管理施設側から職場環境の確認を行いたいとの要望もあり、施設側のスタッフが来社した際に併せて出張講習も行われた。 <p>サポーターの心理的負荷、出張・休暇等による不在を考慮し、VAD装着者1名あたり10名以上のサポーターが確保できるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始業前のチェック表の作成: 出勤時にサポーターが予備バッテリーの充電状態等を確認した上で始業するルールを設定し、チェック表を作成した。 ・緊急時対応の準備: サポーターや実施／管理施設の連絡先を記載した緊急時連絡先カードを常時携帯するよう、本人に義務付けた。緊急時のサポーターの対応手順を記載した簡易マニュアルを本人のデスク周囲に常備した。加えて、救急搬送時に備えるため、本人同意の下、所轄消防署に当該社員についての情報提供を行った。 ・離席時対応についての検討: トイレは自席に最も近い場所を使用し、その際のみ単独行動とな 		

ることを許可した。その間に意識障害に陥る可能性を考慮し、離席時にはメモを残した上でタイマーもセットし、設定時間内に戻らなければ周囲の者が確認しに行くというルールにした。昼食は、サポーター同伴の上、使用中のものと同じ設定にした予備コントローラー、予備バッテリーをキャリーケースで持参し、混雑する時間帯を避けて社員食堂で摂ることとした。

・就業制限の設定：「出張禁止」、「交代制勤務禁止」、「深夜勤務禁止」、「デスクワークのみ可」、「電磁波発生区域(変電設備内等)への立ち入り禁止」、「切創リスクのある道具の使用を控えること」との制限を設定した。勤務時間については、通勤時に付き添う家族や社内サポーターの状況を考慮し、人事部門と連携し時短勤務の適用等を行った。

写真・図表・イラスト



1. VAD (HeartMate II) 装着中の状態
バッグの中にシステムコントローラーとバッテリーが納められ、体内ポンプとは経皮ドライブラインで接続されている

バッテリー満充電、携帯品チェック表

・始業前に、バッテリーが満充電になっているか、予備品は揃っているか、サポーターがチェックする
・満充電になっていなければ、就業できません

3月	機務 関連なし	使用中	予備		サポーター	メモ(体調、その他)
		バッテリー 満充電/携帯	システム コントローラー 携帯	患者緊急 カード 携帯		
3月1日	日					
3月2日	月					
3月3日	火					

2. 出社時のバッテリー状態等のチェック表

《社内緊急時連絡先》

① 私(●●●●)が倒れていたら、下記に連絡を！

内線	サポーター名
XXXX-XXXX	●●
XXXX-XXXX	●●
XXXX-XXXX	●●●●●●●●

② サポーターは下記に連絡後、119番！

電話番号	担当者名
[1] 0X-XXXX-XXXX	●●●●病院 コーディネーター ●●
[2] 0X0-XXXX-XXXX	●●●●病院 X階ナースステーション
0X0-XXXX-XXXX	●●●●病院 X階ナースステーション

3. 緊急時連絡先カード

効果

・当初、周囲の社員は緊急時対応の不安などから復職に懐疑的であったが、サポーター講習の受講により理解が得られ、不安も軽減し、受け入れに前向きになった。

・2事例ともに復職後2年以上経過しているが、職場で大きな問題は生じていない。

このGPSの経験から学ぶことができるポイント

・産業衛生スタッフが中心となり、実施／管理施設、人事部門との緊密な連携の下、周囲の社員にサポーターという形で協力してもらって受け入れ態勢を整備することによって、VAD装着者が復職し、就労を継続することは可能である。

・受け入れ体制を整えるにはサポーター講習の受講等で数か月から半年程度の期間を要するため、VAD装着後、復職意思が示された時点で早急に支援体制を構築することが必要である。

・事例毎に業務内容や通勤手段、家族のサポート状況は異なるため、人事部門と連携しながらそれらを考慮に入れた支援を行う必要がある。

・先行事例の情報等は、実施／管理施設のコーディネーターに集積されているので、個人情報に配慮した形で情報提供をしてもらい、復職支援を行っている他社へ訪問する等、積極的な活動を行うことが望ましい。

参考資料

- 1) 橋本 光人, 貝森 亜紀, 三嶋 正芳 職域における植込み型補助人工心臓装着者の復職支援経験 日本職業・災害医学会会誌 69(4): 185-189, 2021.
- 2) 必携! 在宅 VAD 管理 日本人工臓器学会[監修] はる書房 2019年
- 3) 改訂第2版 補助人工心臓治療チーム実践ガイド メジカルビュー社 2018年

COI欄

なし

投稿者

橋本 光人、貝森 亜紀

e-mail

2022年8月12日